

011

From Editor

013

表紙の時計／ピアジェポロ76

014

Editor's Choice!

016

モリス・ラクロア「アイコン PVD」、ルイ・エラル「エクセレンス スモールセコンド ギョシエ」

018

世界は時計で回っている。
ルイ・ヴィトン「ハイウォッチメイキング」
「エスカル キャビネット オブワンダーズ」
「ヴォヤジャー フライング トゥールビヨン」
「ボワンソン・ド・ジュネーヴ プリカジュール」
「タンブルムーン フライング トゥールビヨン」
「ボワンソン・ド・ジュネーヴ サファイア フランク・ゲリー」
「タンブル スリム ヴィヴィエンヌ ジャビングアワー」

024

装飾工芸を凝らしたアーティスティックな新作に見る発展
ブルガリ「ブルガリ・ブルガリ」、オクトフィニッシュモイエローゴールド

026

建築的なラインをイエローゴールドの輝きで包んだ新作
オメガ「スピードマスタームーンウォッチ ホワイトダイヤル」、ダークサイドオブザムーンアポロ8号

028

新鮮なホワイトとデイトールを拘り抜いたブラック
ロンジン「コンクエストヘリテージ セントラル パワーリザーブ」

030

独自のパワーリザーブ表示機構がエレガントに復活
コーネルウォッチ

032

日本に上陸したドイツ製ハンド・クラフト・ウォッチ
アジムス「ミスターロボト サファイア」、オートモビル

034

アヴァンギャルドな「おもちゃの時計屋」が再び上陸
レイモンド・ウェイル「ミレジム スモールセコンド」、ミレジム センターセコンド

037

良心的な価格の「クワイエット・ラグジュアリー」ブランド
ルノー・ティシエ・マンデー

伝説的時計師と若きアルチザンの二人三脚

スイスのニヨンに独立系のマイクロブランドが誕生した。そのデビュー作となる「マンデー」と名づけられた自動巻き腕時計が2024年3月に
お披露目された。熟練時計師のドミニク・ルノーと新進時計師のジュリアン・ティシエによる機械式時計の伝統を打ち破る革新の物語が始まった。

041

オーデマピゲ「CODE 11・59 バイオーデマピゲ」、ロイヤルオーク「新作」

進化し、バリエーションを充実させた主要コレクション

オーデマピゲは3月に2024年の新作の第一弾を発表した。誕生から5周年目を迎えた「CODE 11・59」ではピンクゴールド・モデルが
7型発表された。また「ロイヤルオーク」はフライング・トゥールビヨン搭載モデルのバリエーションが充実した。

049

2024年ブランド別新作情報——ウォッチズ&ワンダーズジュネーブ、ほか

未来に繋ぐための安定と着実な成長を目指して

2024年4月9日から同15日までジュネーブで開催されたウォッチズ&ワンダーズ・ジュネーブには54の時計ブランドが出席し、新作を披露した。このなかの31ブランドを含む計36ブランドの新作の概要をご紹介します。2024年の傾向を探りたい。

088

ブライトリング・エアロスペース B70 オービター

089

気球による初の無着陸世界一周飛行25周年を記念して

090

カール・F・ブヘラ・ヘリテージ バイコンパックス アニマル ジャパン、ヘリテージ バイコンパックス アニマル

091

日本とスイスの国交樹立160周年を記念して

092

アントワヌ・プレジウン・シエナ

093

アントワヌ・プレジウンの腕時計の原点がブルーで登場

094

ルイ・エラル・レギュレーター トゥールビヨン・ルイ・エラル・Xアラ・シルベスタイン ブラック

095

機構面で進化を果たしたコラボレーション・モデル

096

ボーム&メルシエ・ハンプトン・ピエール・スーラージュへのオマージュ・ポリプティックエディション

097

ピエール・スーラージュに捧げる・ハンプトン・第2弾

098

ラドー・トゥール・スクエア × 森永邦彦、アナトム

099

時の移ろいを色で表現する森永邦彦氏コラボレーション第2弾

099

ハミルトン・ベンチュラ X XL ブライト DUNE スペシャルエディション、ベンチュラ エッジ DUNE リミテッドエディション

099

「砂の惑星」のリストデバイスが腕時計として登場

099

デコール・セイコー・息吹

099

ゆったりとした振り子の動きが日常に癒しをもたらす

099

新着情報

099

グルーベル&フォルセイ

099

「アートオブインベンション」の世界を堪能する空間が誕生

099

ロレックスブティックレキシア 銀座本店/タイムヴァレー 麻布台ヒルズ

099

銀座中央通りに新ブティック誕生/タイムヴァレーが日本に進出

099

IWC/H.モザー

099

トレンド発信地にオープン/新宿に誕生した直営店

099

「ティファニー・ワンダー」技と創造の187年

099

「ワンダー」(感動)の世界に誘う絢爛な展覧会

099

オメガ・ムーンスウォッチ・ムーンスァイン・ゴールド・スーパークラス

099

収益金全額をオメガが支援するオービスに寄付

099

2023年度ロレックス賞受賞者

099

未来の世代のために地球を守り、生活の向上に取り組む人々

099

スイスの時計産業と日本を繋ぐスイス時計協会(FH)第12回

099

インフォメーション/問い合わせリスト/次号予告

099

106

106

ルイ・ヴィトン ハイ・ウォッチ・メイキング

装飾工芸を凝らしたアーティスティックな新作に見る発展

ルイ・ヴィトンは2024年の新作として「エスカル」からメティエダールを凝らした3部作を発表。また既存のジュネーブ・シール取得モデルをベースにモダンアートに昇華させた新作が登場し、また「ヴィヴィエンヌジャンピングアワー」にもキュートなふたつが加わった。

「エスカル キヤビネット オブワンダーズ」

ルイ・ヴィトンが本格的な時計製造に乗り出し、「タンブル」でスイス時計の仲間入りを果たしたのは2002年のことであり、20余年が過ぎたにすぎない。しかしその飛躍には目を見張るものがある。2023年には「タンブル」のデザインとムーブメントを刷新し、従来以上に高級時計としての存在感を高めた。

また近年ではエナメルや彫金などの伝統的な手工芸の技法、すなわちメティエダールを採り入れることに積極的に取り組み、装飾を凝らしたコンプリケーション・ウォッチを次々と発表し、注目される。最近ではウォッチメイキングアトリエであるラ・ファブリク・デュ・タンルイ・ヴィトン内にエナメルや彫金細工の職人を擁した「ラ・ファブリク・デ・ザールルイ・ヴィトン」を設けて自社での製作も可能になった。社外の熟練した専門職人の協力も得ながら、アーティスティック

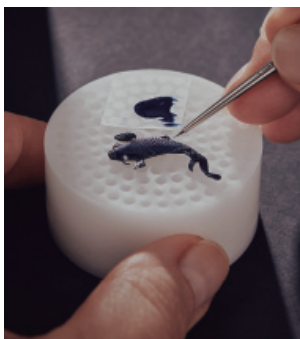
クなモデルの開発に力が注がれている。

2024年はメティエダールの結集で幕を開けた。エスカル・コレクションの『キヤビネットオブワンダーズ（驚きに満ちたキヤビネット）』は限定ウォッチの3部作であり、ルイ・ヴィトン3代目で1907年から1970年までメゾンを率いたガストンルイ・ヴィトン（1883〜1970）の生涯に着想を得て創作された。芸術家、歴史家、写真家、彫刻家など多くの顔をもつガストンは、発見や喜び、驚きに満ちた旅を楽しんだ人物だった。優れた審美眼を持ち、特に職人技の凝縮でありミニチュアの芸術作品ともいえる日本刀のつばに惹かれて蒐集し、その数はおよそ800点に及ぶ。3部作はこの影響を受けてデザインされ、ケースの側面やストラップのバックルには伝統的な日本の文様の青海波が彫金された。カーフレザーのストラップも日本刀の柄

に施される革の装飾に倣っている。

ムーブメントは新「タンブル」と同じく、クロノメーター認定を受けたCal. LFT023を搭載し、22Kローズゴールドのマイクロローターには青海波、ブリッジには未来永劫平穩を願う日本のお守りのモチーフがあしらわれる。

鯉をテーマにした「エスカル キヤビネットオブワンダーズ コイス ガーデン」では静寂な世界が描き出された。ハワイトゴールドの文字盤には小川の清流の穏やかな流れを手作業で彫ったラインで表現する。彫金細工の2匹の鯉が優雅に泳ぎ回る水面にはスモークオークとロクククリスタルの小石、モノグラム・フラワーをエングレービングしたマザー・オブ・パール、ダイヤモンドをセットした小石が散りばめられ、6時位置にはオニキスをセットしたガストンルイ・ヴィトンのモノグラムが置かれる。



澄み切った小川の穏やかな清流の中で、2匹の鯉が渦を巻ながら舞う姿がデザインされた。これに基づいてホワイトゴールドの塊を削り出した鯉に鱗やヒレ、ヒゲを手作業でエングレービングし、焼成する。そして酸化被膜を施した後にその一部を削り、最後に透明のブルーの漆を塗って仕上げ、ホワイトゴールドの文字盤にセットする。

オメガ スピードマスター ムーンウォッチ ホワイトダイアル、ダークサイドオブザムーンアポロ8号、鮮烈なホワイトとディテールを拘り抜いたブラック

オメガは、スピードマスター、コレクシオンからふたつの新作を発売した。ラッカー仕上げのホワイトの文字盤の艶やかさが特徴のムーンウォッチと、細部に徹底した仕上げを施したダークサイドオブザムーン。個性豊かなふたつのモデルを取り上げる。



「スピードマスター ムーンウォッチ ホワイトダイアル」。直径42.00mm×厚さ13.18mmのステンレス・スチール・ケースに手巻きのCal.3861 (26石、毎時2万1600振動、パワーリザーブ約50時間。コアクシャル脱進機。COSC認定クロノメーター)を搭載する。METAS認定マスタークロノメーター。シースルー・バック。5気圧防水。ベゼル・リングは陽極酸化処理を施したアルミニウム製。ステンレス・スチール・ブレスレット。価格125万4000円。レザー・ストラップ仕様、ラバー・ストラップ仕様は共に119万9000円。



2023年11月9日から同19日までニューヨークで開催されたオメガの歴史を振り返る「プラネットオメガエキシビジョン」でオメガ・アンバサダーのダニエル・クレイグが着用していた時計にムーンウォッチ・ファンたちが即座に目をつけて、話題を呼んだ。それは文字盤がホワイトのスピードマスターであり、未発売のモデルであった。NASAが月を目指す有人宇宙飛行計画「アルテミス2」のための特別モデルではないか、というような憶測も飛び交ったという。

この「噂」の時計が2024年3月7日に発売された。ホワイト文字盤にブラックの針と新しいアプライド・インデックスを備え、さらに12時位置のロゴの下にSpeedmasterの文字が赤で際立っている。文字盤のホワイトはムーンウォッチでは初めてラッカー仕上げを採用し、艶やかに白く輝き、袖元からわずかに覗いただけでもスピードマスター好きならすぐに「おやつ」と思うのは無理ない。

なぜホワイトを選んだのか。オメガは

「宇宙服、特に船外活動用宇宙服のホワイトとブラック、そして1970年のアポロ13号以来、船長の宇宙服に描かれているコマンドーの階級を示す赤のラインに着想を得た」と述べている。

過去にもホワイト文字盤のスピードマスターは存在した。1969年に宇宙で使う完璧な時計の設計を試みたNASAの極秘プロジェクトのためにプロトタイプを製作した「アラスカI」と、2008年にこれを再現した、1970個限定で発売した「スピードマスター アラスカプロジェクト」が挙げられる。これらの時計には赤のアルミニウム製の着脱可能な保護ケースが付属し、新作のSpeedmasterの赤の文字はこれに因んだものでもある。

このほか2015年、2020年に発売した「スピードマスター シルバーヌービーアワード45周年記念」と同50周年記念モデルにもホワイト文字盤が採用された。しかしレギュラー・モデルとして登場するのは今回が初めてとなる。

2024年初めのもうひとつの新作、

ルノー・ティシエ・マンデー

伝説の時計師と若きアルチザンの二人三脚

「時計師ドミニク・ルノー」と聞けばルノー・エ・パピの名が浮かぶ。1986年、彼はジュリオ・パピとともにルノー・エ・パピを創業し、多くの時計ブランドのために複雑時計を開発した。スイス時計産業が機械式時計の再興に向けて動き、各社が複雑時計の開発に力を入れた時代の陰の立役者であった。いま彼は新たな挑戦の扉を開けた。その相棒を務めるのが31歳の時計師ジュリアン・ティシエだ。



オーデマピゲ CODE 11.59 バイ オーデマピゲ、ロイヤル オーク、新作

進化し、バリエーションを充実させた主要コレクション



オーデマピゲは3月に2024年の新作の第一弾として20モデルを発表。誕生から5周年を迎えたCODE 11.59 バイ オーデマピゲにはピンクゴールド・ケースの7つの新作が加わった。また2022年の50周年を機に刷新されたロイヤル オークのフライング・トゥールビヨン搭載モデルは外装のバリエーションが充実。1月には新CEOにイリア・レスター氏が就任し、今後の展開が注目される。

2024年ブランド別新作情報——ウォッチズ&ワンダーズジュネーブ、ほか

未来に繋ぐための安定と着実なる成長を期して



2024年4月9日にはパレキシポの会場で華やかなオープニング・セレモニーが行われた。期間中、販売店との商談は1万件以上、プレス・セッションも1800回以上が行われ、ビジネス面でも成功を収めた。また13日から15日までの「パブリック・デー」には家族連れも多く、時計への関心を窺わせた。



ジュネーブ市内では「イン・ザ・シティ・プログラム」や「ウォッチメイキング・ヴィレッジ」で多くのイベントが企画された。ブティックは夜遅くまで営業し、街の中心部では人気DJのロスト・フリクエンシーズのコンサートが開かれるなど、街全体が時計一色に染まった1週間となった。



2024年4月9日から同15日までジュネーブのパレキシポで54ブランドが参加して、ウォッチズ&ワンダーズジュネーブが開催された。その閉幕後のリリースには「オプティミズムをもたらし、新たな高みへ」というタイトルが付けられた。これは販売関係者5700人、ジャーナリスト1500人を含む4万9000人以上という、昨年に比べて14%増の来場者を記録し、大盛況であったことを意味している。

13日から15日の3日間には一般の人々に向けた「パブリック・デー」が設けられ、昨年よりも7000枚多い1万9000枚のチケットが販売された。料金は25歳から60歳未満の1日チケットが70スイス・フラン（約1万1900円）、12歳から25歳の学生は40スイス・フラン（約6800円）、60歳以上は60スイス・フラン（約1万2000円）と設定された。主催者側は一般来場者の25%が25歳未満、平均年齢は35歳と発表し、比較的若い層が多かったようだ。会場ではセレブリティの姿も目立ち、スーパーモデルのジゼル・ブンチェン、テニス・チャンピオンのココ・ガウフなどの登場にソーシャルメディアが炎上したという。

同時期にジュネーブ市内でも機械式時計のメカニズムに触れる体験からパーティやコンサートなど、数々のイベントが開催された。こうして会場の内外で多くの人々、特に若い世代が時計の世界の真髄に触れる機会として成功したことが「オプティミズム」という言葉で表現された。

ワールド・ムック1323
WORLD WRIST WATCH

KESAHARU IMAI
Publisher

TOMOKO KAYAMA
Editor in Chief

KAZUO TSUBOI
Advertising Director

SHUNSUKE OGAWA
Production Director

HIROSHI SASAGAWA
Circulation Manager

DTP
BASE

Cover Photo/
Takenori Aoki (WPP)

●本誌に掲載されている価格は
令和6年5月31日の調べによるものです。
本文中の価格は消費税(10%)込みの総額表示です。
© WORLD PHOTO PRESS 2024

【次号予告】

2024年の新作を掘り下げる

ウォッチズ&ワンダーズが幕を下ろし、春の新作発表は一段落しましたが、6月以降にも各社が新作を発表し、「年に1度の時計の祭典」は過去のものとなりました。今号で概要をご紹介したウォッチズ&ワンダーズジュネーブなどで発表された新作をはじめ、その後に登場した興味深いモデルを掘りおろしの写真と共に紹介します。

発展する日本の独立系時計ブランド

飛田直哉氏が主宰するNAOYA HIDA CO.は2018年の創業以来、1モデルの製造個数を10点以下に限定し、時計愛好家たちの心をくすぐり、順調に発展しています。今年初の18Kイエローゴールド・ケースやレクタングラー・モデルが加わりました。新作を紹介するとともに6年間の歩みを振り返ります。独立時計師の浅岡肇氏は1957年からわずか5年程で姿を消した「幻の時計ブランド」タカノへの個人的な思い入れから、幻を現実へと復活させました。その第一号モデルを取り上げます。

このほか銀座に世界初のブティックをオープンしたグルーベル&フォルセイ、銀座日新堂にフロアが設けられたコンスタンチン・チャイキンなど、日本で新たな展開を行うブランドの背景を改めてみていきます。

「世界の腕時計」第161号は2024年9月9日発売予定です。

世界の腕時計 定期購読のご案内

毎号、送料無料でお届けします！

お近くに書店のない方、毎号確実に入手したい方
便利な定期購読を是非ご利用ください。
特別定価アップ分、および送料はサービスいたします。

【年間購読料】

1年間(年4冊) **7,200円(税込)**
(3月、6月、9月、12月・8日発売予定)



【お申し込み方法】

- フリーダイヤル 富士山 富士山
●お電話で(年中無休/9時~21時受付) **0120-223-223**
●インターネットから <http://fujisan.co.jp/sekainoudedokei>
●QRコードから 上記QRコードからアクセスして下さい。

【お問い合わせ】

富士山マガジンスerviceカスタマーセンター
パソコンサイト: <https://fujisan.co.jp/cs>
メールの場合: cs@fujisan.co.jp
に、お問い合わせください。

■注意事項

- 定期購読の契約は、富士山マガジンスerviceとの契約となります。
- お支払いのタイミングによっては、ご希望の開始号が後ろにずれる場合がございます。
- 地域によっては、発売日より商品到着が若干遅れる場合がありますので予めご了承下さい。
- 定期購読は原則として途中解約はできませんので予めご了承下さい。

編集の都合上、内容が一部変更となる場合もありますので、ご了承ください。

ワールドフォトプレス総合サイト <https://www.monomagazine.com>

WORLD **M**OOK
ワールド・ムック1323

世界の腕時計

No.160

令和6年7月15日発行

発行人……………今井今朝春
編集人……………香山知子
発行所……………株式会社ワールドフォトプレス
〒166-0004東京都杉並区阿佐谷南1-12-1
アーク阿佐ヶ谷
編集部……………☎03-6383-2319 FAX.03-6383-2583
メディアビジネス部
……………☎03-5929-7682 FAX.03-6304-9443
販売部……………☎03-6383-2390 FAX.03-6383-2574
印刷所……………大日本印刷株式会社

- 造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら
小社・販売部宛てにお送りください。送料小社負担にてお取替えいたします。
- 本誌掲載記事の無断転載・複製・転写を禁じます。